

かやい戸に
手がとどく!!

保育現場の超具体的安全戦略!

いよいよ
はじまり
ます!!

創刊号

命の危険はどこに隠れている? 保育現場で発見力アップ!

所 真里子

日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。



モノと環境×からだの大きさ×発達段階 = 育ち×危険

おとなが守るべきものは、子どもの育ちと同時に、子どもの命です。では、命を奪う可能性のある危なさとは、どんな環境、どんなモノでしょう? 子どもの成長発達との関わりは?

たとえば、5センチの段差。ハイハイなら乗り越えられる高さでも、よちよち歩きではつまずき、転ぶ高さです。モノだけが危ないのではなく、その場所や使われ方(環境)、子どもの成長発達段階も危なさや密接に関係しています。

この連載では、世界で子どもの安全の基本として使われている『ISOガイド50』をもとに、子どもたちの「やってみたい!」「できた!」を満たす保育を実現しつつ、安全な保育環境もつくる、そんな超具体的で、現場ですぐ活かせる安全の話を取り上げていきます。お役立てください。



発見力があれば見えてくる…

はさむ

はさむと、腫れたりくじいたりするだけでなく、骨が折れたりもします。はさむ場所が首なら息ができなくなり、頭や体がはさまると動けなくなります。すき間のサイズやはさまれた時の勢い、そのモノの鋭さによっても危なさは変わります。



溺れる ふさがれる

溺れるのは、プールやお風呂だけではなくありません。洗面器、バケツ、トイレ、シンクなど、口と鼻をふさぐだけの水が溜まっている場所すべてです。また、寝返りした時や転んだ時に口や鼻が何かでふさがれて、息ができなくなることもあります。



落ちる

高さが高いほど、落ちた時の危なさが増します。特に、子どもは頭が重いため、頭から落ちます。また、高さはそれほどでなくとも、落ちた場所(硬いコンクリート面やフローリング)や打つ場所(頭)によっては、深刻なケガのリスクがあります。



首が絞まる ひっかかる

頭や首のまわりにヒモ状のモノ(スタイやフード、バッグのヒモ、縄跳び、電気コードなど)がひっかかると首が絞まり、息ができなくなることがあります。転んだり倒れたりして勢いがついていると、ひっかった一瞬で首は絞まってしまうです。

